

「泉北ほっとけないネットワーク」プロジェクト

— 地域の「空き」を共有し、コミュニティサービスを展開する —

■コンセプト

「泉北ほっとけないネットワーク・近隣住区論」プロジェクトとは、現状では十分に活用されていない空き家・空き店舗を地域の「空き」としてとらえ、その「空き」を地域で共有し、そこを拠点に支え合うための様々なコミュニティサービスを展開するモデル事業である。本事業は国・府・市のモデル事業指定*を契機とした、地元自治会・事業者、国・府・市、大学等の民産官学の密接な連携の取り組みであり、地域全体を巻き込んだまちづくり活動として今後のニュータウン再生のモデルになるといえる。

*国土交通省高齢者等居住安定化推進事業、堺市地域共生ステーション推進モデル事業、大阪府新しい公共の場づくりのためのモデル事業などのモデル事業指定を受けている。

■背景

泉北ニュータウンは、45年前、高度経済成長期に開発され、現在、少子高齢化・人口減少、住宅施設・インフラの老朽化等、様々な課題を抱えている。都市圏と郊外とのエッジ（境界）に位置する立地特性を踏まえて、子どもから高齢者まで多世代が豊かな自然や農園の中で健康に暮らす「泉北スタイル」の実現を独自の目標にかかげている。加えて地域の「ほっとけない」精神の下で生まれたボランティア組織が多く（100以上）活動していることも特徴で、これらの地域特性を生かした具体的な再生の仕組みが求められている。

■具体的内容

2010年9月に槇塚台地区（人口約7000人、高齢化率約30%）において、住民・NPO・大学・行政が相互連携する組織「泉北ほっとけないネットワーク推進協議会」を組織し、空き住戸と空き店舗を福祉サービス拠点に転用し、高齢者・障害者・子どもを含む地域住民生活を包括的支援するための安心居住・食健康のコミュニティサービスを提供している。

<拠点整備>

地域レストラン（近隣C. 空き店舗、2店舗・計230㎡）
 まちかどステーション（近隣C. 空き店舗、1店舗・58㎡）
 生活支援住宅（府営住宅空き住戸、7住戸・計300㎡）
 シェアハウス（戸建住宅、1住戸・134㎡、2013年年度内完成）

<コミュニティサービス展開>

見守りをかねた配食サービス
 昼食、居酒屋の提供（地域レストラン）
 各種サークル支援（地域レストラン2階、生活支援住宅）
 食健康相談、健康リハビリ支援（・・・）
 ショートステイ（生活支援住宅）・・・など

■泉北ほっとけないネットワーク推進協議会（主なメンバー）

槇塚台校区自治連合会（西野健造ほか）
 NPO槇塚台助け合いネットワーク（西野健造ほか）
 NPOすまいるセンター（西上孔雄、西尾正敏ほか）
 株式会社 愛のケア工房はるか（岩井美智子）
 NPO法人 ASUの会（柴田美治）
 大阪市立大学 グループ（森一彦、小伊藤亜希子、小池志保子、生田英輔、木村吉成、白須寛規、春木敏、千須和直美ほか）
 大阪府立大学 グループ（樋口由美、小栢進也ほか）
 大阪物療大学 グループ（高井逸史）

■写真・図

中段上から：生活支援住宅4（まきつかハウス、槇庵、やどりぎ、光の散歩道）
 右段上から：位置図、槇塚台地区、泉北ほっとけないネットワーク概念図、槇塚台レストラン厨房、同食堂、健康リハビリ、こともと母親による配食
 下段：空き屋共有の展開図（地域断面図、配置図）

